

## 令和7年度第3回病院運営審議会 議事録

日時：令和8年3月25日（水）

午後4時～午後5時25分

場所：湯沢町総合福祉センター2F 会議室

欠席者等：3名

### 【議事録要約】

#### 1. 病院の機械室を視察

#### 2. 報告事項

##### ①令和8年度病院事業年間予定と病院事業会計予算概要について

（資料1～資料3）

委員：器械購入一覧に、購入予定額や保守費用を記載してもらいたい。

事務局：病院でリストをあげてもらい、管理協議会で購入器械を選定した。定価の半額で購入予定、全部で7,000万円程度になった。生化学自動分析装置は修理で50万円ほどかかった。

委員：購入した器械のメンテナンスはどのようにしているのか。

事務局：保守契約は器械によるが、年数万円程度、これは湯沢病院で支払っている。

委員：歯科の診察台について。設備を整えて開業したが廃業してしまった医院を知っている。そのような所から安く購入してはどうか。

事務局：医療器械等の購入については病院で検討し、事務局と優先順位を決めて購入している。

委員：それほど古くない中古品の購入についても、検討の際に入れてもらえればと思う。

委員：赤字縮小のために行っていることは何かあるか。

事務局：赤字縮小については町長からも要請しており、病院も経費削減など相当努力している。また、赤字になった場合の補てんについてもトップ同士、管理協議会で会議を行っている。

～湯沢病院出席～

##### ②外来患者・入院稼働率・救急患者数の推移について（資料4）

委員：収益を増やすために、外来患者へ院内で薬を処方してはどうか。（解熱剤、湿布、痛み止め程度のもの）

湯沢病院：町内に24時間営業の薬局がないため、現在は時間外のみ、院内処方を行っている。拡大するとしたら、薬剤師確保が必要で人件費増。薬価益は小さく在庫管理コストや期限切れ損失が発生。稀少使用薬は箱単位仕入れで期限切れリスクが高く、収益増にはつながらない。なお、同一患者の院内・院外処方併用は不可。

### 3. 審議事項

#### ①湯沢病院に対するご意見等について（資料5）

委員： 带状疱疹ワクチン助成について。現在、5歳刻みの助成制度があるようだが、病気で免疫が落ちたタイミングなどで、1回目だけでも補助対象にしてほしい。

事務局： 50歳以上の任意接種に対しても助成を行っている。

委員： 助成額を増額することはどうか。

事務局： 助成額は近隣と足並み揃えているので、湯沢町だけ高くするわけにはいかない。

委員： 終活支援とエンディングノート普及の提案、ACPの現状について。超高齢社会で終末期医療・介護の負担増を踏まえ、エンディングノートが有用と考える。町や社協で講習会を開催し、記入の支援や普及をしてはどうか。ノートは病院や社協の窓口でも配置してはどうか。

湯沢病院： 病院ではサイネージ等でACPの啓発を行っている。希望者への意思表示支援も実施している。入院時や申出を契機に開始。外来で一律の声かけはストレス懸念があるため、対象者やタイミングに気をつけている。在宅看取り時は介護保険担当やケアマネ等と連携している。地域の支え合いも機能していると考える。

事務局： 「私の心づもりシート」等の活用と啓発を継続していく。社協では葬儀や相続に関する講演を行ったことがある。地域包括でも人生会議の働きかけを実施している。町独自ノートは未作成のため既存のシートを活用していく。社協の講演会の周知は「社協だより」に掲載しているが、町の広報紙、ホームページにも掲載できる。広報だけでは限界があるため集会での直接告知も重要と考える。講演会を行うと毎回40～50名程度の方が集まってくれている

#### ②委員からの意見は代読

### 4. その他

#### ①湯沢病院より

今シーズンの救急受入、外国人の受診状況と経営概況について

冬期は救急車の対応が増加したが例年並み。外国人受診者が例年より多く、月140人～150人程度だった。観光客だけでなく、スキー場や関連業務の労働者の受診が増加した。今年度は収益が昨年度より改善し赤字縮小する予定だが、解消に至るわけではない。引き続き収益改善を継続していく。